

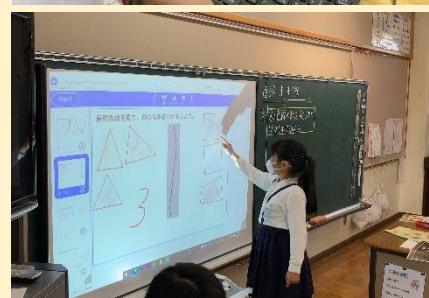
# 1人1台端末の活用による実践事例 (小・中学校用)

学校名	久米南町立弓削小学校	実践者名	鳩場 千恵
教科	算数科	学年	第2学年
活用内容	図形のなかま分け 意見交流	実践日	令和3年10月13日
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 2
単元・内容等	「三角形と四角形」 三角形と四角形の意味を知り、三角形と四角形を弁別したり、わけを説明したりすることができる。		

## 活用の概要（目的・活用場面・使用アプリ名を含む）

- 前時を振り返り、本時の課題をつかむ。
  - 前時の「どうぶつの家づくり」の活動で学んだ「直線」という言葉を押さえ、本時の学習につなげる。

直線の数を見て、形のなかま分けをしよう。
- 自分で課題解決する。
  - タブレットの画面上で、図形のなかま分けをする。
  - 画面上に区切りの線を書き込むことで、なかま分けをした根拠を明確にし、交流の活動につなげやすくする。
- 互いに考えを交流し、「三角形」「四角形」という用語の意味を知る。
  - 学習支援ソフトで、1人1人の画面を大型提示装置で黒板前面に映し出し、それぞれの考えを比較する。
  - 画面を指し示しながら、自身の考えとその理由を話すことができるようにする。
- 定義を元に、三角形と四角形を弁別する。
  - 「3本」「4本」「直線」「囲まれている」という言葉に注目して、意味を正確に理解できるようにする。
- 本時のまとめをする。
  - デジタル教科書にあるフラッシュカードの問題に取り組むことで、三角形と四角形の性質を確実におさえる。



端末の画面上で容易に図形を動かすことができ、言葉や線で根拠を書き記す等、考えを明確にするのに役立った。大型提示装置に、各自の画面を写し、それらを基に話し合ったことで、弁別しにくい図形にも着目しやすくなり、活発な意見交流につながった。(指導主事より)

実践者の手ごたえ	児童生徒・保護者等の主な反応や声
なかま分けするときに、児童が進んで辺の数を書き込み、根拠を持って考える児童の姿を見ることができた。また、間違えてもすぐに再チャレンジできるので、その都度何度も定義に立ち返り、思考を深められたように思う。	参観者からは、「児童が進んで学習に取りかかり、画面を見ながら自分の言葉で気づきが説明できていたことがよかった。」という声が多かった。また、「分かった。」「もうなかま分けできる。」と児童の自信にもつながった。

※本授業は、久米南町立弓削小学校令和3年度研究「自分の考えを持ち 生き生きと活動する児童の育成をめざして～「非認知能力」や児童の気づきを大切にしたい授業を通して～」の一環として実施された。

本研究に関する詳細は、下記 URL を参照

(弓削小学校 HP [https://www.town.kumenan.lg.jp/school\\_yuge/index.html](https://www.town.kumenan.lg.jp/school_yuge/index.html))